

事業所名 阿久比町児童発達支援事業所てくてく

公表日 令和7年 3月 24日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		○絵カードや写真、マーク等利用し、視覚支援を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		○公認心理士や作業療法士等の専門職からのアドバイスをうけ、職員間で話し合い、各部屋の環境を作っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		○共有の部屋であってもパーティションで区切ったり、他児と利用をずらすなど、個人スペースや個別で利用できる工夫を行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		○独自のアンケートや保護者向け評価表での意見を参考に改善するべき点を話し合い、次年度の運営につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		10		●第三者評価の実施は未定。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		○療育内容や支援方法について講師を招いて研修を行っている。 ○作業療法士や言語聴覚士等専門家と話す機会を設け、職員のスキルアップを目指している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		○令和7年1月に阿久比町HPにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		○アセスメントシートを利用して面談を行っている。	○子どもの育ちを確認する独自の評価シートを製作中。今後活用していく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		○保護者、担当職員、児童発達支援管理責任者で会議を行い、児童発達支援計画を作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		○児童発達支援計画をもとに個々の記録や振り返りを行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10			○子どもの育ちを確認する独自の評価シートを製作中。今後活用していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		○ガイドラインと照らし合わせ、児童発達支援計画を作成している。 ○支援内容を検討する際、職員の中でガイドラインの理解を深められるようにしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		○子どもの姿や成長発達を職員間で共通理解した上で、活動内容を立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		○発達に合った動きを取り入れた活動や順番を待つ経験ができる活動などを取り入れている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		○一人一人の姿に合わせ、集団行動への参加方法や支援内容を検討している。	○個別活動については、ねらいやプログラムの検討が必要である。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		○療育終了時の振り返りやミーティングにて個々の支援内容や活動の際の支援方法を検討し、支援開始前の時間までに職員間で共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		○設問20と同様	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		○児童発達支援計画で決めた支援だけでなく、日々の関わりの中で気づいた育ちに対して、支援方法を話し合い、改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		○担当保育士と計画を見直した後、保護者との面談を行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	10		○会議参加前に各担当職員と打ち合わせを行い、適切な人が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		○事後フォロー教室から入所する利用者が多いため、教室に参加したり、紹介したりする機会を作っている。 ○子育て支援センターや保健師、町内保育所、幼稚園等を交えた会議を定期的に行い、情報交換をしている。	○保育園・幼稚園に対して事業所の業務を理解してもらえるよう園長会で周知する。 ○R7年度の機構改革後に再度町全体の療育体制の見直しを行う。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	5	○町内保育所や幼稚園を交えた会議等で児童発達支援についての啓発を行っている。 ○移行に向けて、関係機関と連携を取り、1回以上会議をする機会を設けている。	○町情勢により併用通園は難しいが、それに代わるシステムを考える必要がある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		○入学予定の学校と情報交換を必要に応じてに行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		10	○地域に児童発達支援センターがないが基幹や研修講師等へ相談し助言を受けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9	1	○併設保育所の子どもと戸外遊びで自然とふれあう機会を作っている。 ○保護者に対して入園希望園の園庭開放等への参加を案内、必要に応じて同行し、障がいのない子どもと活動する機会を作っている。	○在籍者の減少により小集団での療育が難しい。併用保育所との交流方法が課題となる。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		○療育内で子どもの育ちについて話し、関わり方等を一緒に考え、共有している。 ○2～3か月に1回懇談を行っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10		○公認心理師による、ペアレント・トレーニングや保護者自身の理解を深めるワーク等を実施している。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		○入所時の面談で行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		○保護者、担当職員、児童発達支援管理責任者で会議を行い、児童発達支援計画を作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		○面談の機会を設け、支援計画の内容を保護者と共有し同意を得ている。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		○関係機関や専門分野の講師から助言を受け、広い視野で物事がとらえられるようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	1	○保護者ワークや父サロン等保護者同士が話す場を設けている。 ○利用者家族やOB家族が集まり、交流する場を設けている。	○利用者家族やOB家族が集まる場を設けているが、参加者が少ない。OB家族に日程が周知できるようにする。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		○保護者からの申し出については迅速かつ適切に対応している。 ○保護者の様子に合わせ声を掛け、相談に応じるようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		○事業所だよりで活動概要が把握できるようにしている。 ○アプリによる連絡、配信を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		○責任をもって法令遵守を行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		○ユニバーサルデザインを心がけ、誰でも分かりやすい情報発信をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10		○民生委員、地域住民、OBの保護者が日々の療育に参加している。	
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		○緊急時に併設保育所と協力ができるよう、日頃よりマニュアルを共有し、合同訓練を行っている。 ○保護者に内容を周知できるよう、説明を行い、手に取れる場所にマニュアルを配備している。
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		○併設保育所と同日に訓練を行い、避難の際に連携が取れるようにしている。	
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		○入所時の面談にて子どもの健康面について聞き取りを行っている。	
48		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			○今年度は該当なし	
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		○併設保育所と協力ができるよう、日頃よりマニュアルを共有し、合同訓練や研修を行っている。	
50		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		10		○保護者に内容を周知できるよう、説明を行い、手に取れる場所にマニュアルを配備する。
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		○事故におけるヒヤリハット、身体拘束・虐待についてのヒヤリハット集を作成し、共有している。	
52		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		○圏域主催の虐待防止研修に参加している。 ○職員のスキルアップのための研修を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10		○虐待防止委員会内で身体拘束についても話し合いを行っている。		